

一期一絵・・・

SILKLAND

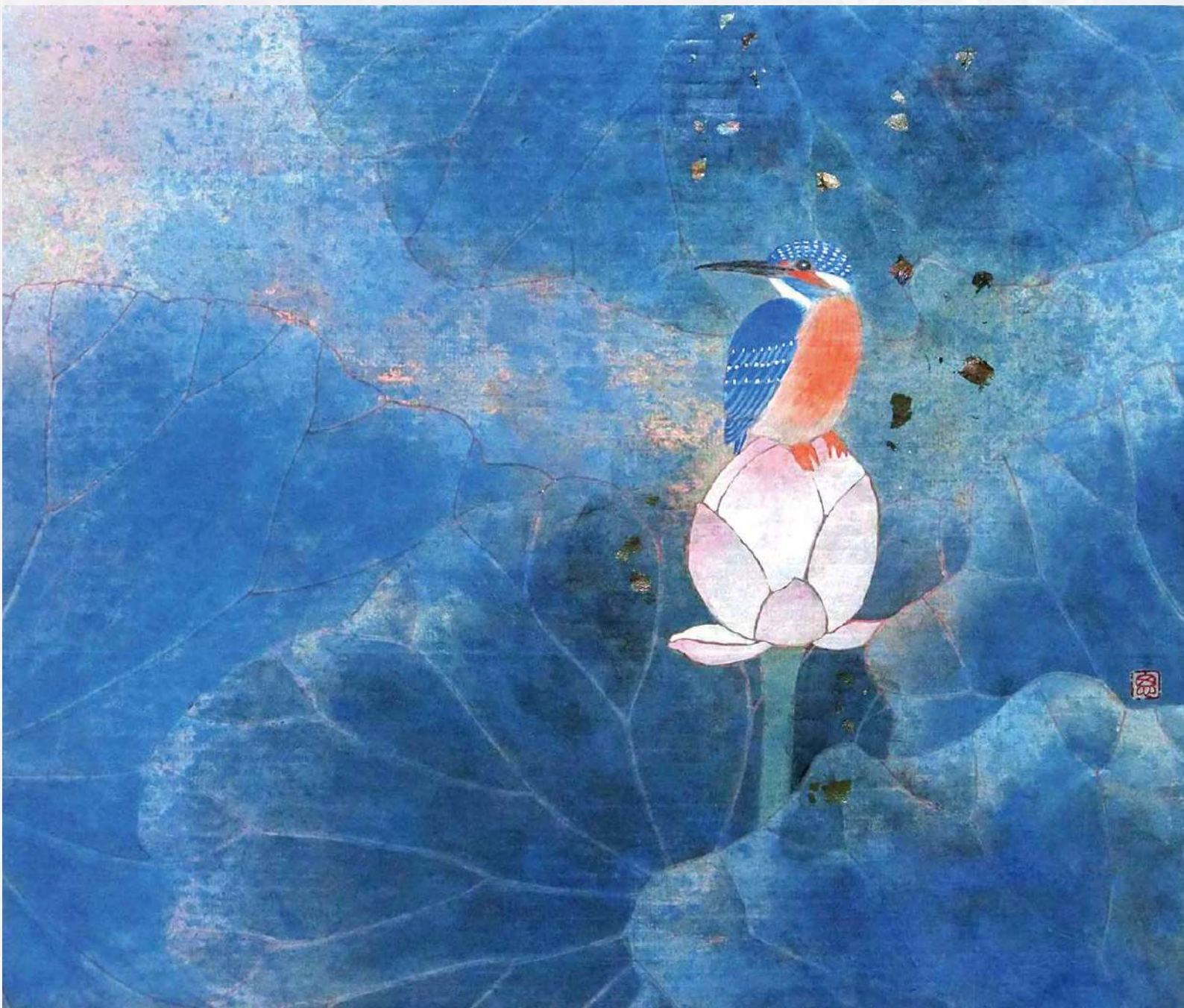
gallery news & communication

No.93

ギャラリー通信

June 2016

<http://www.silkland.co.jp>



《吟遊詩人》F8

～ 吟遊詩人 ～ 盧 思 作品展

2016年 6月13日(月) — 26日(日) ※最終日は午後5時閉場

作家来場: 6/14(火)、17(金)、19(日)、24(金)、26(日) 午後1時から5時



《文月の詩》F6

ごあいさつ

北京で生まれ、京劇俳優としての舞台経験を持つ日本画家、盧 思(ろし)先生のシルクランド画廊における初個展を開催いたします。中国の美大では中国画科にて花鳥画を専攻し、来日後東京芸大で日本画を学び2008年には院展初入選。出産後は愛娘との日常を作品に取り入れ、季節の草花や鳥のモチーフにとどまらず作風の幅を広げ、精力的に制作活動に励んでいます。今展では新作を中心に25点余の作品をご紹介します。どうぞご高覧くださいませようご案内申し上げます。

2016年6月 シルクランド画廊



《吟遊詩人》F6



《トルバドゥール》F6



《卯月の詩》F8

盧 思 作品号単価:3万円



《皁月の詩》F8

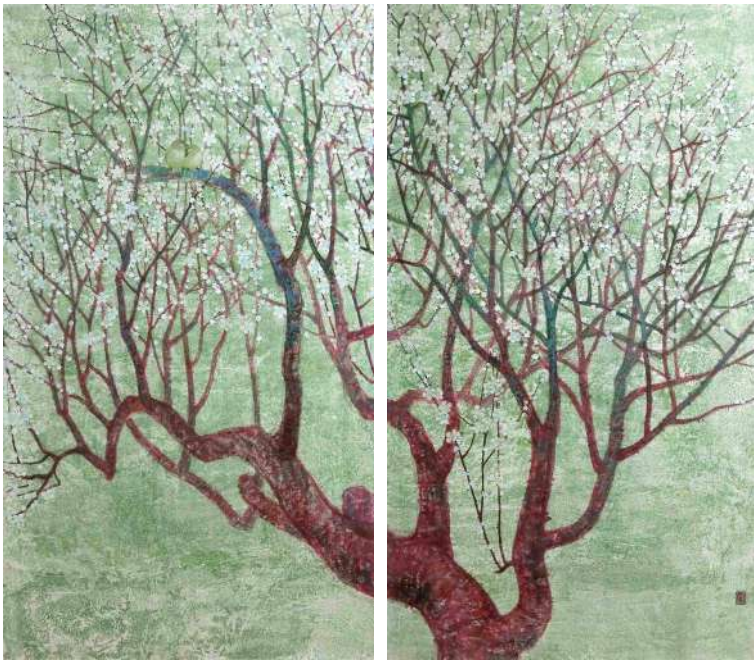


《吟遊詩人》F4



《吟遊詩人》F6

～ 吟遊詩人 ～ 盧 思 作品展



《如月之華 (掛軸)》各 149.5×84cm



《吟遊詩人》F6

Information
展覧会情報



ホンビン・ソー「白砂の記憶」F6

6/27 - 7/9
常設展

シルクランド画廊が取り扱う精鋭作家の作品をご紹介します。



武田 州左「GLOBE光 521」F10

7/10 - 23
武田 州左 展

生命や宇宙の鼓動が聞こえてくるような、鮮やかで揺らぎ流れる動的なイメージ。日本画材特有の質感によって表現された作品の数々をご紹介します。

盧思 先生

Lu Si

聞き手 シルクランド画廊
顧定珍

Interview by Teichin Ko

● 1973 北京生まれ / 1992 中国戯曲学校京劇演技科を首席で卒業 / 中国京劇院の俳優となる / 1997 中央美術学院中国画科卒業 / 来日 / 2001 東京芸術大学大学院日本画修士課程修了 / アーティストビザ取得 / 2002 ~ 個展・グループ展開催 / NHK中国語会話に6年間レギュラー出演 / 2008 第63回春の院展初入選(日本橋三越) / 再興第93回院展初入選(東京都美術館) / 日本美術院研究会員に推挙される / 2009 再興第94回院展再入選(東京都美術館) / 2013 個展(北京丹鳳朝陽美術館) *14 / 2015 「越境展」(シルクランド画廊) / 現在 国立静岡大学人文学部・日本大学国際関係学部非常勤講師担任

今はわずかな時間の合間を縫ってでも、絵を描きたい気持ちでいっぱいです



● 北京で生まれ、中国の美大を卒業後、東京芸大でも日本画を学び今日に至る経歴というアーティスト。三島のアトリエを訪れてお話を伺いました。

● 18歳で中国戯曲学校京劇演劇科を卒業して京劇の俳優としても舞台に立たれた経験をお持ちですが、現在絵を描く上で何が影響を与えていることはありますか？

● 観る人々を魅了できるかどうか、感動を与えることができるかどうか、その為に努力や工夫を凝らすという意味では共通していますね。

● 北京の大学で中国画を学んだ後、日本画を専攻したきっかけは？

● 北京の中央美術学院の卒業を迎えた時に学ぶということに対してまだ物足りないという思いが残りましたが中国画を追求するよりも何か新たな分野を探求してみたいという理由から日本画を選択しました。歴史上の繋がりも興味深かったです。琳、北斎、当初は日本画といえませんが、当時の江戸時代の美術のイメージがかなり強かったため、来日当初は現代の日本画の全てが新鮮でした。

● 絵を描くことで表現したいことは？

● 絵を描く原動力は二つありますが、一つ目は自ら感動した体験を多くの方と共有したい気持ちがあること、もう一つは、自分の内面にあるイメージや創造物を形にして表現するという個人的な想いを解き放つことでしょうか。例えば鳥を描くにしても、見たままを写し取るのではなく、私にはこう見えるといった部分を描き出していくというふうな……

● 生まれ育った中国の伝統的な表現が日本画に及ぼす影響もあったのですね。

● 日本の画材、つまり粒子の粗い絵具や和紙の持つ性質に慣れることで、中国画を描く素材は繊細すぎて扱いが怖くなる時期もありましたが、絵を描くための根本的な中国画に備わったルールやパターンは体で憶えている部分が抜けきれず、むしろ中国的な構図や概念を取り払うべく努力した時期が続きました。ただ、それも行き過ぎたと感じる度に中国画のルールに立ち戻ろうとする自分がいたりして迷いも常にありますが、日本画は色々回り道をした末に見つけた表現手段であることは確かです。

● 初めの内はルールや基礎が大切ですが、それなりのキャリアを積まれて一歩先へ飛躍する時期を迎えているのではないのでしょうか。中国、日本双方の文化を併せ持つ盧思先生ならではの特徴が生まれる楽しみがあります。



アトリエで制作中の盧思先生

● 個人的には中国、日本の境なく日々ひとつひとつ自分に来ることを積み上げていくだけなので、よく聞かれる日中の文化の架け橋のようなことを意識することもないので、もし日々の活動が周りの人達に少しでも影響を与えることが出来れば嬉しいことです。

● 今展では鳥を描いた作品が目立ちますね。

● 中国の美大では花鳥画を専攻していました。娘の誕生と共に母子像など以前より人物表現にもモチベーションが上がるようになってきました。ただ、今回はもう一度原点に帰った花鳥画を意識した内容になっています。

● もちろん、娘との日常の中で思い出深い出来事や習慣も続いています。

● フアンの方からいただく言葉でもっとも印象に残っていることは？

● 私の作品の前で、「ここに居るとほんとに幸せ」と言われたことはとても嬉しかったです。そのように感じてもらえるような絵を描き続けていきたいですね。

● 子育てに、大学での講師活動やテレビのお仕事など多忙な日々ですが、今後の展望をお聞かせください。

● 今は絵を描く時間をもっと欲しいです。今日お話ししたことも含めて画家として必ず壁に突き当たる時期もあると思います。今は推進力のある時期！わずかな時間の合間も縫って、食欲に制作を続けていきたいと思っています。母と子を描いた作品の中で、中国や日本の風物詩を取り入れた絵もいくつか描いてみたいですね。

シルクランド画廊 開廊時間:11:00→19:30(土・日・祝日は18:30まで)

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-5-11 第15丸源ビル1階

Tel 03-5568-4356 Fax 03-5568-4357

http://www.silkland.co.jp e-mail gallery@silkland.co.jp

アクセス ■ 地下鉄丸の内線、銀座線、日比谷線「銀座駅」B7,B9,C2出口 徒歩2分 ■ JR「新橋駅」銀座出口 徒歩6分

